
第80号

1988年 7月 1日

宇電懇ニュース

宇宙電波懇談会事務局発行
(東京大学理学部)

目次

- | |
|---------------------|
| I. 第10回宇電懇運営委員会報告 |
| II. 宇電懇総会報告 |
| III. 新事務局からの挨拶とお知らせ |

I. 第10回宇電懇運営委員会報告

日 時： 1988年 5月 17日 17:00-18:30

場 所： 日本天文学会春期年会会場 (大阪 近畿大学)

1. 事務局報告

第9期事業報告および会計報告 (宇電懇ニュース No. 79 参照)

2. 今年度の宇電懇シンポジウムについて

協力していただける財源としては以下のものがあることが報告された。

(a) 高窪氏 総研A 機関3年の2年目

(b) 森本氏 総研A

(c) 海部氏 総研B 1年

(d) 鰐目氏 総研B 1年

シンポジウムのテーマとしては以下のものが提案された。

(1) 4 m研究会 (高窪)

(2) 星間分子 (鈴木博子さん追悼) (海部)

(重点領域設定をめざす

Submm, 3-5 年間で 約 2億円規模

計画研究を 50% 残りを公募研究)

(3) スペース VLBI

以上を宇電懇総会に提案する。

3. 国立天文台における各種委員の選出について (検討中の案)

田原氏より検討案が文書で示され議論を行った。

(a) 運営協議員会外部委員の選出

(63年 7月の発足時は現在の国立天文台発足準備委員会がほぼそのまま運営協議員会となる予定なので、現在議論している選出方法を実施するのは 2年先の 65年 4月である。)

(b) 分野別専門委員会外部委員の選出

- ・提案はやはりたたき台として今後さらに議論を進める。
- ・7月の委員会発足時に間に合わせるためには、さしあたって従来野辺山宇宙電波観測所共同利用委員会外部委員の場合と同様に、宇電懇運営委員会からの推薦を行うことにしたらどうか。

議論の結果、提案はたたき台として位置づけ、光天連、理論懇などでも検討してもらい、具体化を促進するということになった。また、5月 21日の発足準備委員会で田原氏が宇電懇で検討中のこの案を説明する。

II. 宇電懇総会報告

日 時： 1988年 5月 19日 12:00-13:00

場 所： 日本天文学会春期年会会場 (大阪 近畿大学)

1. 第10期運営委員長と運営委員の選出(選挙結果)

宇電懇ニュース No. 79 で報告した通り、第10期宇電懇運営委員長と運営委員の選挙結果が示され、それに基づき新委員が承認された。

2. 第10期事務局と事務局長の決定

事務局長鯨目氏より、次期(第11期)宇電懇事務局を東京大学理学部天文学教室と、7月に発足予定の東京大学理学部天文学教育研究センターにお願いしたい由、提案があった。これを受けて天文学教室の林氏が受諾の意志を示し、出席者の承認を得た。事務局長は祖父江氏の予定。

3. 第10期事業報告、会計報告

宇電懇ニュース No. 79 で報告した通り、第10期の事業報告および会計報告がなされ、承認された。

4. 1988年度宇電懇シンポジウムのテーマ

提案された以下の3つのシンポジウムについて、宇電懇主催または共催で行うことが承認された。

- (1) 4m研究会(福井) 12月に仙台か東大で。援助は高窪氏総研A。
- (2) 星間分子研究会(鈴木博子さん追悼)(海部) 11月。海部氏総研B。
- (3) スペースV L B I (森本) 森本氏総研A。

5. 国立天文台各種委員会の外部委員の選出方法

これまでの敬意と、5月17日の運営委員会での議論などが報告された。運営協議委員会の外部委員は、直接選挙と、宇電懇運営委員会での調整を行って候補者を決定すること、各専門委員会の外部委員は各系の独自性に任せること、などの基本的な点は理解を得た。運営委員会での結論のように、特に運営協議委員会の外部委員の選出については、他の分野との統一性が重要であることから、さらに他分野との調整・協議を進め、実現に努力することが確認された。また、このことにかんして、必要なら7月のNROユーザーズミーティングでも議論する。

6. その他

NROユーザーズミーティングを7月13-15日に開くことが報告された。世話人は、田原、稲谷、川辺、立松、林の各氏。内容は、①国立天文台での共同利用運用のあり方、②将来計画、③開発計画、④干渉計共同利用について、など

Ⅲ. 新事務局からの挨拶とお知らせ

1. 会員動向

訃 報：菅浩一さんが6月9日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

移 動：寿岳 潤 東京天文台 → 東海大学文明研究所
清水 実 東京天文台 → 退官、個人へ
高原文郎 東京天文台 → 東京都立大学理学部

名称変更：東京大学東京天文台 → 文部省国立天文台

なお、この改組にともない東京大学理学部に天文学教育研究センター（三鷹）が発足し、以下の会員が新たに配属になりました。

石田 慧一、辻 隆、小杉 健郎、長谷川 哲夫、谷口 義明、常田 佐久（以上、東京天文台より）、祖父江 義明（東大理学部天文学教室より）

退 会：菅 浩一

2. 新事務局からの挨拶

新事務局からのごあいさつ

宇電懇事務局を、本年度より東京大学理学部の電波天文学関係のグループがおおせつかることになりました。天文学界は国立天文台の創設を契機に大きく変貌をとげようとしています。宇電懇は全国的な研究者の組織の一つとして、ますます重要な役割を果たしていかなければなりません。事務局としても心して仕事にあたってゆくつもりです。皆様のご協力をお願い申し上げます。

事務局の引継に当たり、前事務局の鯨目さん、柴崎さんたちのめざましい活躍に感謝するとともに、私たちがこれを見習ってゆかねばと思っています。

1988年 7月

宇宙電波懇談会事務局

東京大学理学部

天文学教室・天文学教育研究センター

祖父江、長谷川、田中、林

宇宙電波懇談会事務局

祖父江義明（代表）

長谷川哲夫（ニュース編集）

田中 培生（ニュース編集）

林 正 彦（会計）

〒181 東京都三鷹市大沢 2-21-1

東京大学理学部天文学教育研究センター

Tel. 0422-32-5111（代）

Fax. 0422-32-9851

郵便振替口座 東京 6-369468